慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	創刊のあいさつ
Sub Title	
Author	石坂, 巌(Ishizaka, Iwao)
Publisher	慶應義塾福澤研究センター
Publication year	1984
Jtitle	近代日本研究 Vol.1, (1984.) ,p.iii- iv
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-19840000--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

創刊のあいさつ

ここに福澤研究センターの最初の紀要を送り出すことになった。福澤研究センターは、一九八三年四月、慶應義塾創立一二五年を記念して開設された。センターの使命とするところは、先ず福澤諭吉についての原資料、関係資料の収集、整理、保全にある。同時に慶應義塾の大学を始めとする諸学校の記録、そしてこれらの教育機関から育ち世に出た人たちの追跡も課題とするところである。われわれはもちろん、これらの課題を文字通り遂行しなければならないけれども、そこにのみとどまることはできないのである。

福澤が統一国家としての日本の国づくりを〈下から〉促進しようとしたのは、周知のことである。教育、新聞、出版、演説に、すなわち彼の言う「学問」を国民にすすめることに、その生涯の努力を傾けたのは、〈私立〉の人間の育成が、国づくりに不可欠と考えたからにほかならない。そうした福澤の熱い視線の行方を見やれば、福澤研究センターの活動も、単なる慶應義塾の枠内にとどまることは許されないのである。

当然のことながら、日本の近代社会の形成、発展の特質の究明に向わねばならない。そのかぎりで、たとえ福澤に直接に関わりのない時代の問題や思想の流れも、とりあげねばならない。またそうした問題や思潮を担った人たちも、それぞれに日本の近代化の歴史のダイナミズムのなかで、その役割を演じている以上、無視することはできないのである。

さらに社会の歴史的発展を目にいれるならば、福澤の同時代にのみ関心を向けるだけではすまされない。前代

としての江戸期、後代としての大正、昭和につづく現代にいたる、社会や思想の動きも注目しなければならないのである。

また日本の開国、近代化にむけられた福澤の情熱が、日本をふくむ東アジアのおかれた当時の、世界史的状況をみつめるなかで、近代西欧文化への鋭く強い関心となっていったことを思うと、われわれが東アジアと西欧と近代日本とのかかわり合いから目をそらしたのでは、近代日本の特質をつかむことはできないのである。

福澤やその関係する人たちの活動、業績を客観的に把握することが、こうした歴史と社会の縦と横の拡がりのなかで、近代日本の展開を目にいれて、ということであれば、福澤研究センターの活動は、したがって「近代日本の社会と人」の研究ということになる。いわば近代日本人の研究である。近代日本の社会と人の特質の解明、把握なくしては、現代日本を論ずることのできないのは、人間社会は決して飛躍することがないという歴史の教えるところである。

福澤研究センターの個々の課題をつらぬく本質的課題が以上のように、近代日本の社会と人の活動、つまり近代日本文化にあるとすれば、センターの調査研究も、センターをこえて広く慶應義塾内外の研究者との共同活動のとりくみを必然化するであろう。したがってこの紀要の紙面もまた広く公開されなければならない。外からの投稿活動を大いに期待し歓迎するものである。

一九八五年春

慶應義塾福澤研究センター所長
石坂　巌